伊勢武史著

『2050年の地球を予測する―科学でわかる環境の未来』

ちくまプリマー新書　2022年1月刊
定価：本体900円＋税

筒井　保行（自治労連岡山県本部）

地球温暖化対策を中心とした環境問題（だけに留まらず、生き方まで問う）著書である。2022年に初版発行されているので、日々の環境悪化と社会情勢の変化に追いついていないのではないか、と疑ったのだが、手にした第4刷は、2025年7月であり、25年用の帯に書かれているPR文字は十分惹きつけるものであった。

2023～2025年の3年間で中学入試【国語】出題数Ｎｏ・１作品※日能研調べ

『中学生にも理解できるのか、分かり易いものを読みたいと思っていたので望むところだ』

異常気象がほぼ毎年に！？　伝染病が拡大、シロクマが絶滅する？？

『新型コロナの拡散、インフルの早期感染も影響しているのか。シロクマも氷が解けて大変だろうが、日本では餌のドングリが不足して、クマが人里に降りて危害を与えている。これも気候変動が主要な原因という』

現代人の必修科目「環境科学の本」

『そうなんだ、環境科学を学ぶことは現代人として必修なんだ。必修の文字は力があるな』と思った。

まえがきから、強烈だ。環境破壊が原因で地球は滅亡する?読者にこう考えているか、と問う。

「温暖化か、核戦争か、どちらかで人類は滅亡する」という持論の私に、地表面が環境破壊されても物理的に地球は爆発しない、と安心させる。環境破壊が進んでも人類は適応能力が高いから、滅亡まではしないだろうと見通してくれた。

ところが、「楽しい星」としての地球は滅亡するかもしれないと誘導する。楽しい星を残すために中学生も大きなお友達も環境科学を学び行動しようと「第１章・環境問題について思う」の扉が開くのだ。

ここから、第6章まで環境の課題が始まるはずだが「なぜ、人間は環境問題を引き起こしてしまうのか」という根源の扉が立ちふさがる。個人の物なら大切にするし、今後も継続するように対応するのだが、共有物は取り合い、破壊しても平気である。良識ある人々は、自制心を働かせることが出来ても、一部の欲望に忠実な人々が共有物をとり合い破壊する。これが環境問題にもつながっている。

ルールを作って規制する事は必要だが、万能でなく、早い者勝ち、取ったもの勝ちという考えが世界中に蔓延している。そして、良識ある人々が一部の欲望に忠実な人々に感化される。

『それならどうしよう』

持続可能な社会のために道徳や社会のルール、理性と良心で対応するという自己犠牲の環境保全は成立しないと、切り捨てられた。

将来の利益につながる環境を守るために、今は我慢する事を人類は出来ると。

結論は似ているようだが、基礎が違っている。

環境問題を題材にして人の生き方を問い、考えさせる。中学生は元より、大きなお友達もお読みください。

環境問題にとどまらない何かが見つかるでしょう。

（つつい やすゆき）